

北海道栄養士会

学校健康教育栄養士協議会だより

2025.4.18



ご挨拶

学校健康教育栄養士協議会会長 岡本美千子

新年度がスタートし、会員の皆さまにおかれましては、慌ただしい日々をお過ごしのことと存じます。私が勤務する小学校でも、1年生の給食が始まりました。アレルギー対応は適切にできているか、食数に間違いはないかなど、落ち着かない気持ちで日々を過ごしております。

昨年度を振り返ると、突然降ってきたかのような個別指導、もっと良い方法はないかと試行錯誤した食育授業、そして長年の課題である給食費と栄養価のすり合わせ…。こうした悩みに向き合っているうちに、あっという間に1年が過ぎてしまいました。毎年、「今の取り組みを深めるよりも先に、新しいことに取り組みざるを得ない年だった。大変だったな」と感じているように思います。そして、きっと今年度もまた同様なのでしょう。

それでも、入学や進級を迎えてキラキラと登校してくる子どもたちの姿に励まされ、私たちが新たな気持ちでスタートを切りたいと思います。どうせやるなら、明るく楽しい気持ちで取り組みたいですね。共にがんばってまいりましょう。

今年度は、私たちに求められているスキルを高めるための研修会を企画するほか、情報や便利ツールの提供・共有を通じて、会員の皆さまを応援していきたいと考えております。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

ご報告

【2024年度 日本栄養士会学校健康教育職域 管理栄養士・栄養士育成のための全国リーダー研修会】

2025年1月19日（日）に web にて開催され、北海道からは協議会長・岡本が参加しました。2023年度および2024年度の事業報告、そして2025年度の事業計画案が提案されました。北海道栄養士会学校健康教育栄養士協議会でも、この事業計画案に沿って今年度の基本方針・事業を推進していきます。下記の議事報告をご覧ください。また、研修会の後半には「栄養教諭等の職務・業務・配置に関する調査から見えた課題と展望」と題し、神奈川県立保健福祉大学 飯田綾香先生による講演がありました。これは昨年度行った「栄養教諭等の職務業務に関する調査」の回答を分析した結果から、私たちの課題と今後の展望を示したものでした。講演のスライドを抜粋したものと解説を掲載しますので、ご覧になってください。

議事報告 2025年度 学校健康教育事業計画（案）

■ 私たちのあるべき姿（方向性）

『児童生徒の生涯にわたる健康・命・幸せに貢献できる栄養教諭を目指す』

■ 3つの基本方針

	基本方針	内容
1	栄養教諭配置1校1人を実現	<p>① 栄養教諭を必置義務の職員にするための配置法を改正するためのエビデンスを作成。</p> <p>② 栄養教諭・学校栄養職員の配置等の状況の、都道府県・市町村の格差を無くすために各都道府県リーダーと協働。</p> <p>③ 食に関する指導を実施したくても職場環境の要因で実施できていない人を減らすために、職場環境の現状を把握し、エビデンスを作成し、栄養教諭の標準的職務ができる環境にする。</p> <p>④ 栄養教諭を多くすると良いこと、例えば個別的な相談指導実践事例などを作成周知する。</p> <p>・ 栄養教諭数 2023年度6924名→2024年7700名→2025年7700名（全国30,779学校の4校に1人の栄養教諭）</p> <p>・ 「栄養教諭等の職務・業務に関する調査」 報告書参照</p> <p>・ 「栄養教諭等の配置に関する調査」 報告書参照</p> <p>・ 「個別的な相談指導実践事例集」2025年度中にHPに掲載予定</p>
2	栄養教諭が学校現場において、適時に直接相談・指導することにより子ども達が健康になり、栄養教諭が生涯の健康づくりには必須となる。	<p>人材育成事業部と協働をして、下記の領域の特定分野における実践活動により優れた結果を生むことができると同時に、必要とするスキルを認識し、常にその資質向上に向けた研鑽を行うことができると、日本栄養士会が認める特定分野管理栄養士・栄養士を増やす。</p> <p>・ 学校栄養分野認定管理栄養士・栄養士</p> <p>・ 食物アレルギー管理栄養士・栄養士</p> <p>・ 小児栄養分野管理栄養士・栄養士</p> <p>・ JDA-DATのリーダー</p>
3	学校における栄養教諭（管理栄養士・栄養士）が、児童生徒に寄り添える時間と人的配置等のシステムで、給食管理と食に関する指導を一体的に行う。	<p>① 学校健康教育職域が栄養教諭に業務を効率化するためのツールを提供する。</p> <p>② 栄養教諭の活動を実践事例としてとりまとめエビデンスとなるように構築する。</p> <p>・ EER算出表ダウンロード</p> <p>・ 「朝食」に関する教科等の指導資料のデータベースダウンロード</p> <p>・ 子どもの栄養食事指導・支援プログラム</p> <p>・ 学校健康教育eラーニング（お知らせ 生涯教育についてご案内 参照）</p>

講演報告

「栄養教諭等の職務・業務・配置に関する調査から見えた課題と展望」

講師 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科 飯田綾香氏

1. 食に関する指導について

食に関する指導(単位時間)

		食に関する指導(単位時間)				p
		多		小		
		n	%	n	%	
現在の採用種別	栄養教諭免許	438	56.2	649	83.4	<0.001
	学校栄養職員	184	23.6	77	9.9	
	自治体栄養士	72	9.2	21	2.7	
	その他	85	10.9	31	4.0	
管理栄養士	有	598	76.8	668	85.9	<0.001
	無	181	23.2	110	14.1	
兼務校	有	390	50.1	433	55.7	0.027
	無	389	49.9	345	44.3	
栄養教諭免許	有	604	77.5	727	93.4	<0.001
	無	175	22.5	51	6.6	
日本栄養士会会員	有	485	62.3	516	66.3	0.094
	無	294	37.7	262	33.7	

食に関する指導 足かせ (5つまで)



食に関する指導(単位時間) まとめ

【足かせ(全体)】

1. 給食管理の業務量
2. 食物アレルギー対応の増加
3. 兼務(重複した業務)

【10単位時間以下の人が感じている足かせ】

- 兼務、食物アレルギー対応の増加、委託会社の教育体制、分掌過多

【食に関する指導を比較的行っている人が感じている足かせ】

- センター給食配属、異動直後、採用直後

・n は回答数

・調査に回答した人の「食に関する指導の時間(授業時間)」は1年間の合計でおよそ10コマが中央値だった。

・それは大体ひと月に1コマくらいの計算になる。それをどのように考えるか…。

・指導時間の多い・小さいは中央値(年間10コマ)より多いか小さいかで分けた。

・多かった人の採用種別を見ると、赤枠の割合となる。

・小さかった人の採用種別を見ると青枠の割合となる。

・採用種別が栄養教諭である人の指導時間が『多い』人は438名 指導時間が『小さい』人は649名で、小さい人のほうが多数であり、課題と言える。

・食に関する指導の足かせとなっているのは圧倒的に給食管理の業務量が多すぎることであった。

・栄養教諭が、期待される役割(食に関する指導・個別的栄養相談)に注力するためには、足かせとなっている事柄を解消していくことが必要である。

・いかに給食管理における栄養士業務をスリム化し、食に関する指導に時間を充てるかがカギとなる。

2. 個別的な相談指導について

個別的な相談指導

		個別的な相談指導実施の有無				p
		有		無		
		n	%	n	%	
現在の採用種別	栄養教諭免許	406	76.3	681	66.4	<0.001
	学校栄養職員	73	13.7	188	18.3	
	自治体栄養士	27	5.1	66	6.4	
	その他	26	4.9	90	8.9	
管理栄養士有無		445	83.6	821	80.1	0.088
		87	16.4	204	19.9	
兼務校の有無		291	54.7	532	51.9	0.294
		241	45.3	493	48.1	
栄養教諭免許の有無		476	89.5	855	83.4	0.001
		56	10.5	170	16.6	
個別的な指導の学校内の体制は整っているか						
	とても思う	19	3.6	2	0.2	<0.001
	そう思う	115	21.6	65	6.3	
	少し思う	145	27.3	119	11.6	
	あまりそう思わない	181	34.0	400	39.0	
	そう思わない	45	8.5	226	22.0	
	全くそう思わない	27	5.1	213	20.8	

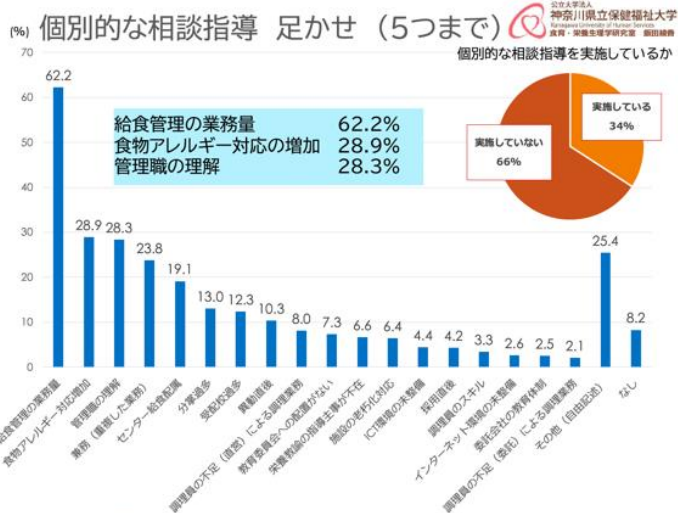
・nは回答数

・この調査に回答した人全体で「**個別的な相談指導**」を実施している人は**34%**、実施していない人は**66%**で、実施していない人の方が多かった。

・**実施したことが有る人**の採用種別を見ると、赤枠の割合となる。

・**実施して無い人**の採用種別を見ると青枠の割合となる。

・管理栄養士有無の項目も注目していただきたい。



・個別的な相談指導の足かせとなっているのも給食管理の業務量が多すぎることであった。

・その内、実施していない者が感じている足かせには「**個別的な指導の学校内の体制**」も多く挙げられた。

・個別的な相談指導を実施していない者のうち、本当は実施したいと答えた者は**82.8%**。

※北海道栄養士会の昨年の研修会におけるアンケートでは「自分のスキル不足」がハードルとなっていると答えた人も多数いました。

個別的な相談指導 まとめ

【足かせ(全体)】

- 給食管理の業務量
- 食物アレルギー対応の増加 28.9%
- 管理職の理解

【実施していない者が感じている足かせ】

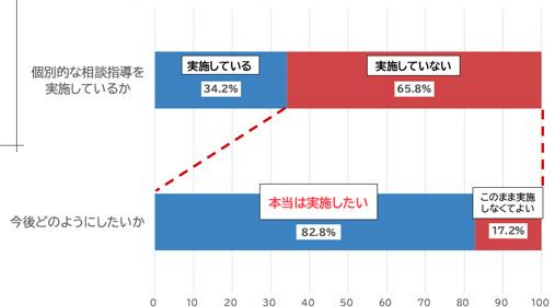
管理職の理解、センター給食配属、異動直後、採用直後、(受配校過多)

個別的な指導の学校内の体制

【実施している者が感じている足かせ】

兼務校

個別的な相談指導について



お知らせ

1. 個別的な相談指導について

北海道栄養士会では、8月1日（金）に個別的な相談指導推進のための研修会を行う予定です。5月下旬より申込みを開始しますので、ぜひご参加ください。その前に生涯教育の「栄養ケアプロセス」を受講してみませんか？ 学校における個別指導の流れは「栄養ケアマネジメント」の流れに沿ったものです。栄養ケアマネジメントは2000年に栄養士法が改正されて以降、医療や福祉の現場で行われている栄養指導の手法です。2000年以前に管理栄養士・栄養士養成施設を卒業した方々は学生時代に学習してこなかったこととなります。また、それ以降に卒業した方々も長年学校現場にいる間に記憶が薄れているのではないのでしょうか。近年、栄養ケアマネジメントは、国際的な基準などにあわせた「栄養ケアプロセス」という名称で用語や概念の統一が進められており、日本栄養士会の生涯教育でも「栄養ケアプロセス」が開講されています。ぜひご検討ください。

2. 生涯教育についてご案内

● 日本栄養士会の生涯教育とは？

管理栄養士・栄養士として、社会や医療の変化に対応できるように、働きながら学び続けるための仕組みです。国家資格を取って終わりではなく「専門性を深める」「最新の知識を得る」「他職種から信頼される専門職になる」ことを目的に日本栄養士会がサポートしています。

● どうやって受講するの？

日本栄養士会のホームページ『研修会』のサイトから受講申し込みをします。オンライン研修・対面研修・オンデマンド配信など、形式はさまざまです。

● 生涯教育の構成としくみ

① 基幹教育

・栄養士・管理栄養士としての基本的な知識・技術を学び直すことができます。

・管理栄養士・栄養士としてのミニマムスタンダードを身に付ける**基本研修**と、専門とする分野に特化される知識と技術を習得する**実務研修**があり、受講すると単位が付与されます。学校健康教育の実務研修の項目は下記の表を参照してください。

・基本研修は2025年4月からリニューアルし、専用サイトもオープンしました。**日本栄養士会会員は無料で受講できる講座が多くあり、ログインすればいつでも何度でも受講可能です。**有料講座は初回申込み後、繰り返し受講可能となります。ちなみに個別的な栄養指導のスキルに必要な「栄養ケアプロセス」は基本研修の項目にあります。下の図を参照してください。知識の振り返りや最新情報の取得に、ぜひ活用してください。

基本研修

これまでの項目	新しい項目	必須	講義(e-ラーニング)		演習(ライブ)	
		単位数	単位数	受講料	単位数	受講料
① 専門職としての役割と倫理綱領	① 専門職としての役割と倫理綱領	1	1	—		
② 食と栄養に関する基礎知識	② 食と栄養に関する基礎知識	5	8~	有料		
③ 食事管理プロセス	③ 食事管理プロセス		3	—		
④ 栄養ケアプロセス	④ 栄養ケアプロセス	8	8~	—	5	有料
⑤ リスクマネジメント	⑤ 地域連携(多職種連携)・在宅支援	1	1	—		
⑥ 非常時の緊急体制	⑥ リスクマネジメント		2	—		
⑦ 調査研究	⑦ 非常時の緊急体制		1	—		
⑧ 関連法規	⑧ 調査研究		1	—	1	有料
⑨ その他	⑨ 関連法規		1	—		

講義15
演習 5

実務研修：学校栄養分野 eラーニング(オンデマンド) 開講一覧

講座名	研修科目	講師
多職種と連携し、円滑に職務を遂行する『巻き込み力』を身に付けよう！ ～環境にも対応できる関わり方のポイント～	G411-103 多職種連携①	(株) Smart Presen 代表取締役 新名史典先生
学校における食育推進に向けた目標設定と評価	G46-111 食育のための行動科学	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学 教授 赤松利恵先生
自然に望ましい食習慣に導くアプローチ： ナッジの基本と活用	G47-102 集団栄養指導	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系 教授 赤松利恵先生
伝わってナンボ！の衛生管理	G37-102 学校における衛生管理	(株) Smart Presen 代表取締役 新名史典先生
学校給食摂取基準を活用した栄養管理	634-101 栄養補給法	大阪公立大学大学院 生活科学研究科 生活科学専攻生活科学部食栄養学科 教授 由田克士先生
発育期における成長曲線の活用と 子どもの栄養管理 ～『子どもの栄養食事指導・支援 プログラム』の使い方～	G46-109 個別指導 (食事指導・食事管理)	和洋女子大学家政学部健康栄養学科 教授 杉浦令子先生
発達障害のある子どもの偏食改善に向けた アプローチ方法	G46-101 対象者理解	発達障害臨床研究会 代表 東京都立花畑学園 主任教諭(臨床発達心理士) 植竹安彦先生

② 拡充教育

専門領域の特定の分野におけるさらに高度で詳細な専門知識・技術、学術（教育・研究スキル）を向上させるものとして位置づけています。

・認定管理栄養士・栄養士

[「学校栄養分野認定管理栄養士」](#)など。

・特定分野管理栄養士・栄養士

[「食物アレルギー管理栄養士・栄養士」](#) [「小児栄養分野管理栄養士・栄養士」](#)

[「公認スポーツ栄養士」](#)など。

3. 「栄養教諭の配置促進」に関する要望書の提出

公益社団法人日本栄養士会（代表理事会長：中村丁次）は、日本栄養士連盟とともに、2024年12月27日（金）に、あべ俊子文部科学大臣へ「栄養教諭の配置促進」に関する要望書を提出しました。詳しくは[日本栄養士会HP](#)をご確認ください。



左から、あべ 俊子文部科学大臣、山東昭子 参議院議員・栄養士議員連盟会長、中村丁次会長、井上幸子 日本栄養士連盟会長

4. 2025 年度書面総会について

今年度も書面総会を開催させていただきます。北海道栄養士会ホームページに掲載しております。ご確認ください。

5. メーリングリストについて

学校健康教育協議会におきましては、会員の皆様に各種連絡や研修会に関わる情報を電子メールにて、迅速に配信するために、メーリングリストを作成しております。会員の皆様に有益な情報を御提供するために、ぜひ、メールアドレスの御登録をよろしくお願いいたします。なお、職場の異動があった場合も改めて御登録をよろしくお願いいたします。

登録方法は、以下2点となります。

①QRコードでの御登録

スマートフォンなどでQRコードを読みとり、フォームでの御回答をよろしくお願いいたします。



②メールでの御登録

h00111435@hokuei.or.jp宛てに、お名前・現在の所属先・メールアドレスを御記入いただき、送信お願いいたします。なお、メールアドレスは、使用頻度の高いものを御記入下さい。よろしくお願いいたします。

6. 個人情報の取り扱いについて

北海道栄養士会 学校健康教育栄養士協議会（本会）では、個人情報の適切な利用と保護の徹底をはかり、会員の信頼を得るために、個人情報保護に関する法律等を遵守し、個人情報の取り扱いについては次のようにいたします。

個人情報の利用目的

本会は、北海道栄養士会の目的である「栄養改善を通じて道民の健康の保持増進及び疾病の予防を図るとともに、栄養士の資質の向上につとめ、もって道民の福祉の増進に寄与すること」のために以下の2項につき個人情報を利用いたします。

- (1) 研修会などの案内送付
- (2) 同会からの事務連絡等文書の送付

※同会で扱う情報は氏名・所属先・メールアドレスです。

個人情報の管理について

本会では、会員等の個人情報を正確かつ最新の内容に保つよう管理します。上記の個人情報の利用目的以外には、会員等ご本人のご承諾が無い限り、個人情報を使用しません。また、提供いただいた個人情報を適切かつ慎重に管理し、漏洩、減失、き損及び改ざん並びに個人情報へのアクセス等に対し、必要な予防並びに安全対策を講じます。

個人情報の追加・変更・訂正等について

本会にご提供いただいた個人情報の追加・変更・訂正等をご希望の方は同会事務局までご連絡下さい。（担当：札幌市立みどり小学校 須合幸司 koji.sugo@sapporo-c.ed.jp）